

**「多くの人を利用する
公共的な空間の全面禁煙化」
に関する調査**

平成22年3月26日

株式会社QLife(キューライフ)

結論の概要

1. 「禁煙の場」で喫煙する人がいても、68%の人は「注意をしたいが、ほとんど注意はしない」
2. 74%の人が、分煙されているはずの施設で「きちんと分煙されていない」と感じた経験がある。喫煙者でも、66%の人が同様の経験を有する。
3. 「受動喫煙」「副流煙」という言葉や、厚労省が2010年2月25日に出した「公共的空間を全面禁煙とするよう求める通知」が、喫煙者の間では広く知られている。認知率は前者98%、後者81%。
4. 80%が厚労省通知に賛成。非喫煙者に限ると65%が「強く」賛成。地域別には、東京・大阪・愛知など都市部に住む人の賛成率が低く、周辺府県が賛成率が高い。
5. 病院や学校は、種別に関わらず全面禁煙すべきと考える人が多い。百貨店、通学路、タクシーも禁煙支持派が多い。
6. 喫煙者の賛否は、施設によって大きく異なる。病院や学校、通学路や百貨店は全面禁煙賛成が多いものの、喫茶店や居酒屋、ホテルといった個別嗜好性が強い場所では反対派が増える。なお、路上や公園、景勝地など、設備による完全分煙が不可能な屋外施設を、喫煙者の約半数が全面禁煙に賛成した。
7. 「路上(通学路以外)」など、喫煙者のなかでも男女別で賛成率が異なる施設がある。喫煙ニーズや他者リスク実感度に男女で違いがあるからだろう。
8. 分煙している飲食店が「全面禁煙」に踏み切った時の、利用客から見ての価値向上は「1000分の37.5円」。値上げを一切許容しない人が59%で、価格に転嫁できるほどの評価には値しないようだ。
9. 喫煙者と非喫煙者が共存するためのアイデアは、「モラル/マナー向上」「教育」といった当事者意識に関するものが多いが、設備・技術開発による解決に期待する向きも多い。ただし、「共存は不可能」とする意見も多かった。

【調査実施概要】

▼調査責任
株式会社QLife

▼実施概要

- (1) 調査対象: 全国の一般生活者(病院検索サイトなど医療メディアQLifeの利用者)
- (2) 有効回収数: 1,511人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2010/03/17~2010/03/23

▼有効回答者の属性

(1) 性・年代:

	男性	女性	合計
10代	0.1%	0.0%	0.1%
20代	0.7%	1.4%	2.1%
30代	6.2%	13.2%	19.3%
40代	17.7%	17.0%	34.7%
50代	17.6%	8.5%	26.1%
60代	10.2%	2.4%	12.6%
70代	4.3%	0.5%	4.8%
80代以上	0.3%	0.0%	0.3%
合計	57.0%	43.0%	100.0%

(2) 地域:

北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬
4.3%	0.6%	0.8%	1.6%	0.7%	0.4%	1.1%	1.6%	0.9%	1.1%
埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野
6.7%	6.6%	20.6%	12.9%	1.0%	0.4%	0.7%	0.1%	0.2%	0.8%
岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
1.3%	1.6%	5.3%	1.5%	0.7%	1.8%	8.1%	4.4%	1.2%	0.7%
鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡
0.4%	0.0%	0.9%	1.5%	0.7%	0.0%	0.4%	0.4%	0.1%	2.5%
佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄			
0.2%	0.8%	0.4%	0.4%	0.6%	0.6%	0.3%			

(3) 喫煙習慣:

	男性	女性	合計
喫煙者	29.2%	18.6%	24.7%
非喫煙者	70.8%	81.4%	75.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(参考)日本人の平均喫煙率は男性38.9%、女性11.9%(日本たばこ産業株式会社、「平成21年全国たばこ喫煙者率調査」)。男女の率を単純平均すると25.4%。

【調査結果の詳細】

1. 「受動喫煙」または「副流煙」という言葉を、聞いたことはありますか。

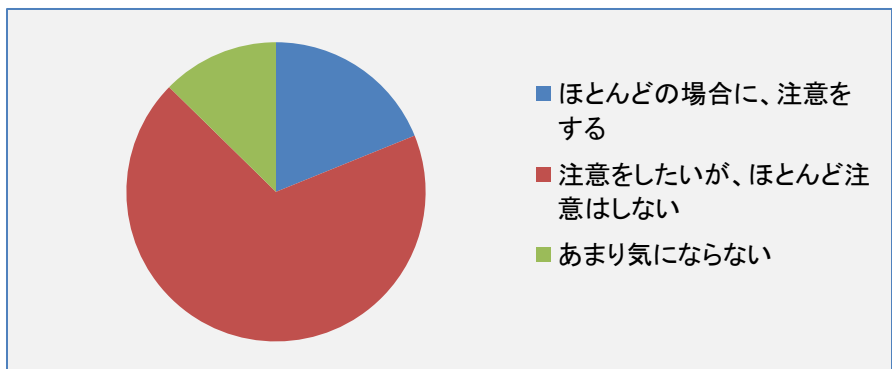
「受動喫煙」や「副流煙」という言葉の認知率は、極めて高い。これは、喫煙者・非喫煙者の別に関係ない。「受動喫煙」が禁煙化推進の根拠課題となっているため、むしろ喫煙者の方が敏感になっているのかもしれない。

	喫煙者	非喫煙者	全体
聞いたことがある	98.4%	96.0%	96.6%
聞いたことはない	1.6%	4.0%	3.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

2. 「禁煙の場」で、見ず知らずの人が、喫煙していました。あなたは、いつもどうしますか。

「分煙」空間でも「受動喫煙」が起きるのは、煙の制御が物理的に不完全なケースもあるが、喫煙者が不注意/マナー違反で、禁煙場所で喫煙してしまうケースもある。こうした場合に、68%の人は、気が付いてもなかなか当人には注意できない。

		「経験ない」を母数に含めた比率
ほとんどの場合に、注意をする	18.9%	15.9%
注意をしたいが、ほとんど注意はしない	68.5%	57.6%
あまり気にならない	12.7%	10.7%
そういう場に巡り合わせた経験があまりない	NA	15.8%
合計	100.0%	100.0%

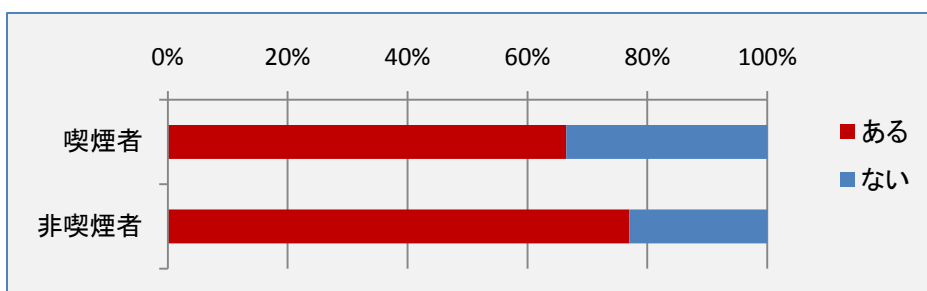


3. 「分煙」されている施設を利用している時に、「きちんと分煙されていない」と感じたことはありますか。

喫煙者といえども3人に2人は「分煙の不完全」を感じたことがある。やはり非喫煙者の方が、敏感で77%にのぼる。男女の別では、あまり感じ方に違いはない。

	喫煙者	非喫煙者	全体
不完全と感じたことが、ある	66.5%	77.0%	74.4%
不完全と感じたことは、ない	33.5%	23.0%	25.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

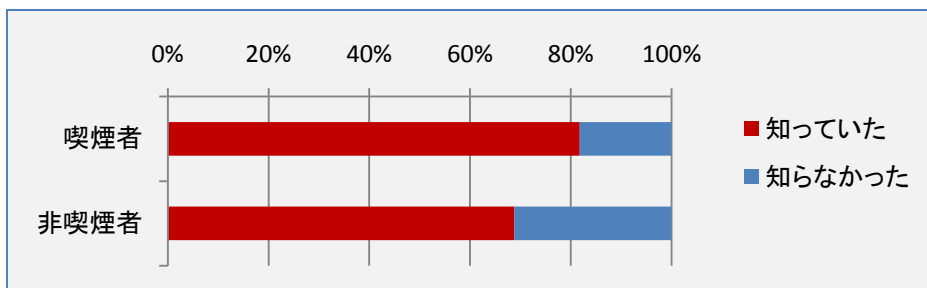
	男性	女性	全体
不完全と感じたことが、ある	73.8%	75.2%	74.4%
不完全と感じたことは、ない	26.2%	24.8%	25.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%



4. 厚生労働省は2010年2月25日、「飲食店や遊技場など多くの人が利用する公共的な空間を、原則、全面禁煙とするよう求める通知」を、都道府県に出しました。あなたはこのことを、ご存じでしたか。

厚生労働省の「公共的空間は全面禁煙」通知は、喫煙者の中で認知率が高く、80%を超えた。非喫煙者の方が低く、68%に留まる。

	喫煙者	非喫煙者	全体
知っていた	81.8%	68.8%	72.0%
知らなかった	18.2%	31.2%	28.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%



5. 前問の、厚生労働省の通知に対して、どう思いますか。

80%の人が厚生労働省の全面禁煙方針に賛成をしている。男性よりも女性の方が賛成派が多く、また非喫煙者や、「分煙が不完全と感じたことのある」(前出)人の方が、賛成率が高いだけでなく「強く賛成」派が「どちらか」と賛成」を大きく上回っている点が、注目される。

地域別にみると、東京、大阪、愛知など都市部に住む人の方が賛成比率が低く、その周辺府県に住む人は賛成比率が高いという、ドーナツ化現象が見える。

	男性		女性		全体	
強く賛成	51.0%	77.3%	53.3%	84.6%	52.0%	80.4%
どちらかという賛成	26.2%		31.3%		28.4%	
どちらかという反対	14.3%	22.7%	10.6%	15.4%	12.7%	19.6%
強く反対	8.5%		4.8%		6.9%	
合計	100.0%		100.0%		100.0%	

	喫煙者		非喫煙者	
強く賛成	10.2%	43.7%	65.7%	92.4%
どちらかという賛成	33.5%		26.7%	
どちらかという反対	31.1%	56.3%	6.7%	7.6%
強く反対	25.2%		0.9%	
合計	100.0%		100.0%	

	「分煙不完全」 経験者		「分煙不完全」 未経験者	
強く賛成	58.4%	84.1%	33.6%	69.8%
どちらかという賛成	25.7%		36.2%	
どちらかという反対	10.8%	15.9%	18.3%	30.2%
強く反対	5.2%		11.9%	
合計	100.0%		100.0%	

	東京		東京除く関東		大阪		大阪除く関西		愛知		それ以外全国	
強く賛成	51%	78%	52%	82%	46%	75%	54%	84%	53%	77%	53%	81%
どちらかという賛成	27%		30%		30%		30%		23%		28%	
どちらかという反対	13%	22%	12%	18%	16%	25%	8%	16%	15%	23%	13%	19%
強く反対	8%		6%		9%		7%		9%		6%	
合計	100%		100%		100%		100%		100%		100%	

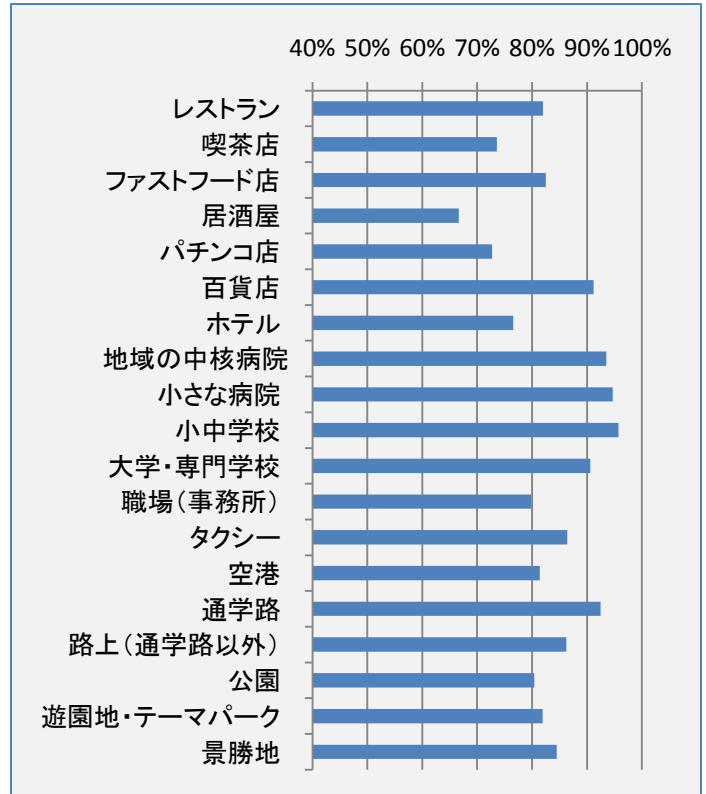
6. 次の各施設において「全面」禁煙とすることに賛成ですか。

全面禁煙に賛成か否かを施設別に聞くと、例えば同じ飲食店でも、ファストフード店82.5%～居酒屋66.6%と大きく差が開く。

賛成率が高い施設は、病院（規模に関わらず）、学校（小中学校と大学・専門学校とに関わらず）などで、90%を超えた。百貨店も高い。

一方、屋外施設も比較的賛成率が高く、路上（通学路以外）、公園、景勝地などいずれも80%以上であった。


	全体
レストラン	82.0%
喫茶店	73.6%
ファストフード店	82.5%
居酒屋	66.6%
パチンコ店	72.7%
百貨店	91.2%
ホテル	76.6%
地域の中核病院	93.5%
小さな病院	94.7%
小中学校	95.8%
大学・専門学校	90.6%
職場（事務所）	79.8%
タクシー	86.4%
空港	81.4%
通学路	92.5%
路上（通学路以外）	86.2%
公園	80.4%
遊園地・テーマパーク	81.9%
景勝地	84.5%

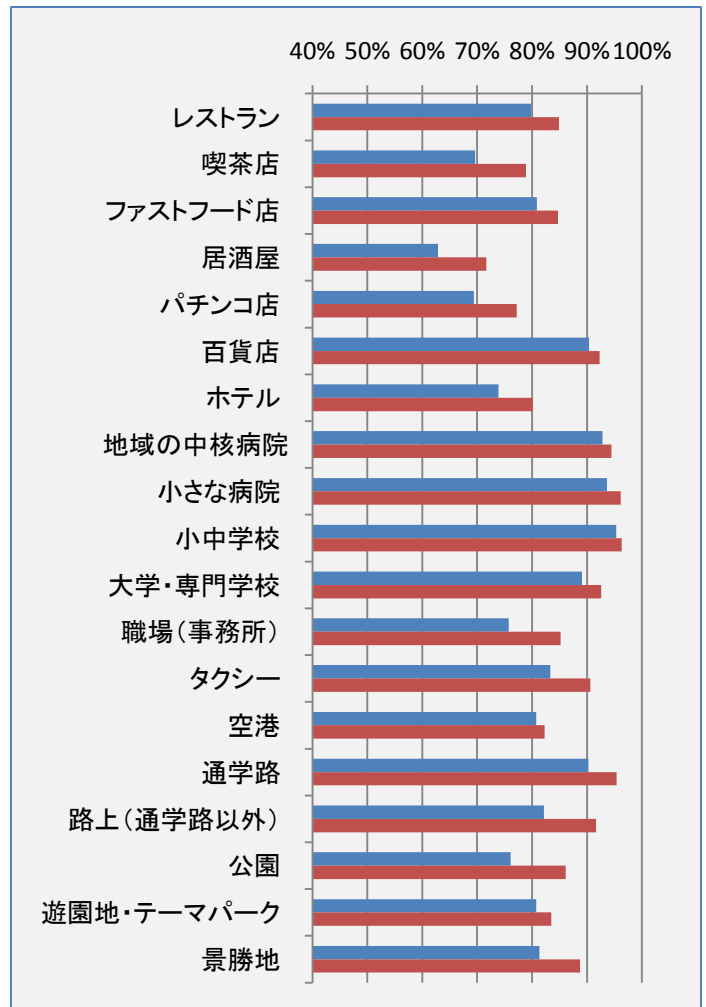


6. <前頁から続く> 次の各施設において「全面」禁煙とすることに賛成ですか。・・・男女別集計

男女別の傾向を見ると、もともと女性には非喫煙者が多く含まれるため、総じて賛成率が高い。ただ、喫茶店、居酒屋、職場（事務所）、公園については、特に賛成率が男性に比べて高く、これらの施設利用時において女性は男性よりも受動喫煙に敏感なようだ。

	男性	女性
レストラン	79.8%	84.9%
喫茶店	69.6%	78.9%
ファストフード店	80.9%	84.7%
居酒屋	62.9%	71.6%
パチンコ店	69.4%	77.2%
百貨店	90.4%	92.3%
ホテル	73.9%	80.1%
地域の中核病院	92.8%	94.5%
小さな病院	93.6%	96.1%
小中学校	95.4%	96.3%
大学・専門学校	89.1%	92.6%
職場（事務所）	75.8%	85.2%
タクシー	83.3%	90.6%
空港	80.7%	82.3%
通学路	90.3%	95.4%
路上（通学路以外）	82.1%	91.7%
公園	76.1%	86.1%
遊園地・テーマパーク	80.7%	83.5%
景勝地	81.3%	88.8%


性差が特に大きな欄 = 

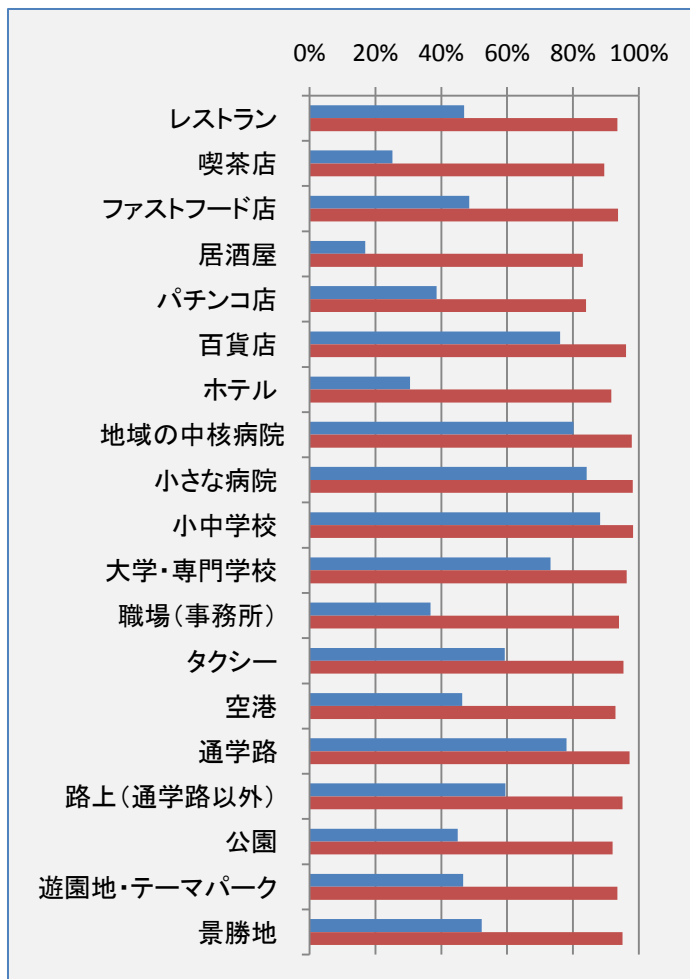


6. <前頁から続く> 次の各施設において「全面」禁煙とすることに賛成ですか。・・・喫煙/非喫煙別集計

喫煙者と非喫煙者別に賛否をみたところ、大きく傾向が分かれた。喫煙者は、ほぼ全施設にわたって全面禁煙にすべきと考えている。居酒屋、パチンコ店も、男女とも83%前後の人が、全面禁煙を支持する。一方喫煙者は、施設によって賛否が大きく異なる。病院や学校、通学路や百貨店は禁煙支持が多いものの、喫茶店や居酒屋、ホテルといった個別嗜好性が強い場所では反対派が増える。なお、路上や公園、景勝地など、設備による完全分煙が不可能な屋外施設を全面禁煙することに、喫煙者の約半数が賛成しているのは、注目すべきであろう。

	喫煙者	非喫煙者
レストラン	46.9%	93.5%
喫茶店	25.2%	89.5%
ファストフード店	48.5%	93.7%
居酒屋	16.9%	83.0%
パチンコ店	38.6%	83.9%
百貨店	76.1%	96.1%
ホテル	30.6%	91.7%
地域の中核病院	80.2%	97.9%
小さな病院	84.2%	98.2%
小中学校	88.2%	98.2%
大学・専門学校	73.2%	96.3%
職場(事務所)	36.7%	93.9%
タクシー	59.2%	95.3%
空港	46.4%	92.9%
通学路	78.0%	97.2%
路上(通学路以外)	59.5%	95.0%
公園	45.0%	92.0%
遊園地・テーマパーク	46.6%	93.5%
景勝地	52.3%	95.1%

差が特に大きな欄 = 

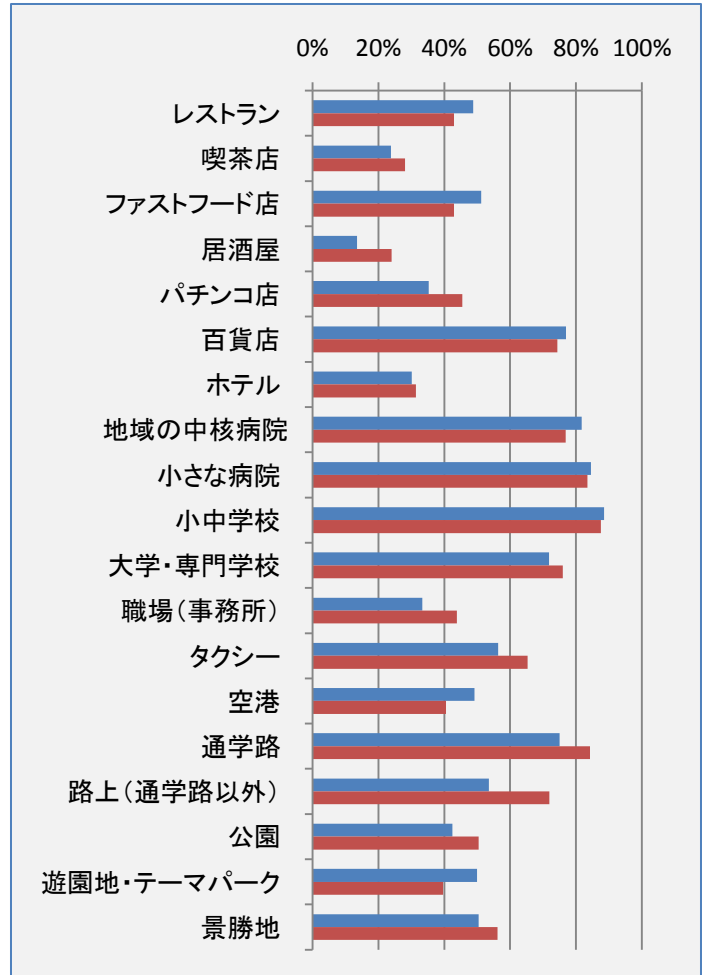


6. <前頁から続く> 次の各施設において「全面」禁煙とすることに賛成ですか。・・・喫煙者男女別集計

喫煙者に絞って男女別の傾向をみた。同じ喫煙者でも、施設によっては男女でとらえ方が違うようだ。例えばファストフード店、空港、遊園地・テーマパークでは男性の方が全面禁煙に賛成する人が多く、居酒屋、パチンコ店、職場(事務所)、路上(通学路以外)、公園では、女性の方が賛成者が多かった。特に路上(通学路以外)は、20ポイント近く男女で差が開いた。女性喫煙者の方が、「路上喫煙ニーズ」が低い、ないし「他者が被るリスク実感度」が高いのだろう。

	喫煙 男性	喫煙 女性
レストラン	48.8%	43.0%
喫茶店	23.8%	28.1%
ファストフード店	51.2%	43.0%
居酒屋	13.5%	24.0%
パチンコ店	35.3%	45.5%
百貨店	77.0%	74.4%
ホテル	30.2%	31.4%
地域の中核病院	81.7%	76.9%
小さな病院	84.5%	83.5%
小中学校	88.5%	87.6%
大学・専門学校	71.8%	76.0%
職場(事務所)	33.3%	43.8%
タクシー	56.3%	65.3%
空港	49.2%	40.5%
通学路	75.0%	84.3%
路上(通学路以外)	53.6%	71.9%
公園	42.5%	50.4%
遊園地・テーマパーク	50.0%	39.7%
景勝地	50.4%	56.2%

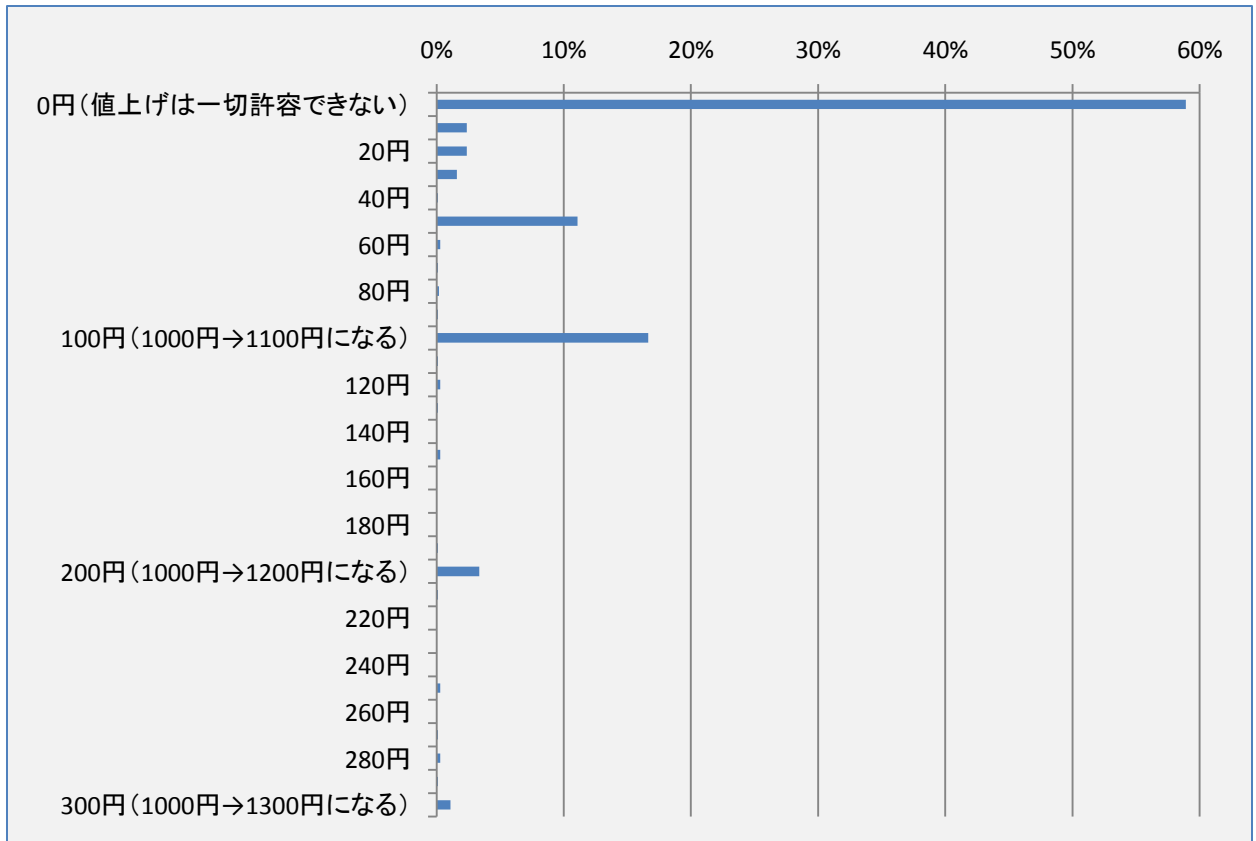
性差が大きな欄 =



7. (非喫煙者の方のみに質問)「飲食店が全面禁煙に踏み切る価値」を客の立場で教えてください。「時間帯や場所によって分煙(喫煙席に通されるかもしれない)」の飲食店が、「いつ行っても全面禁煙」に変わりました。ところがその分、1000円だったメニューが、値上がりしました。あなたは幾らまでなら値上げを許容できますか？

厚生労働省の通知では、「昨今の世界的な社会経済状態の影響等も相まって、自発的な受動喫煙防止措置と営業とを両立させることが困難な場合がある」と、飲食店などは全面禁煙化に踏み切るのが難しいケースがあるとの見解を示している。

では生活者は、どの程度「分煙化→全面禁煙化」に価値を置くのかを、聞いてみた。すると、飲食店利用客から見ての価値向上は平均で「1000分の37.5円」であった。1000円→1050円、ないし1100円がそれぞれ11%、17%いるものの、値上げする価値を一切認めない人が59%。現実的には、価格転嫁できるほどの評価には値しないようだ。



8. 喫煙者と非喫煙者が「共存」して「双方」が快適に生活するためには、どうしたら良いと思いますか。

喫煙者と非喫煙者が快適に共存するアイデアも聞いた。「モラル/マナー向上」「教育」といった当事者意識に関するものが多いが、「分煙精度を上げる設備」「煙・臭いのない煙草の開発」など技術革新への期待も高い。喫煙者・非喫煙者とあまり論点に違いはなく、「一部の喫煙者のマナー/モラル欠如のせいで、他の喫煙者も肩身が狭い思いを強いられている」とする喫煙者コメントも少なくない。ただし、「共存は不可能」「煙草の禁止/大幅値上げで喫煙者減らし」といった意見も根強かった。以下に、その一部を例示する。

全施設全面禁煙となると喫煙者は禁煙するか利用できないので、分煙を徹底すべきかと思えます。また全ての喫煙者は禁煙となっているところで喫煙しないように守れば良い。一部のマナーの悪い人のために喫煙者が肩身の狭い思いを強いられすぎかと思えます。	喫煙者	男性	40代	兵庫県
完全分煙ができない場所・公共施設では禁煙とすべき。ただし、パーソナルスペース(ホテル個室)や成人遊興施設(パチンコなど)は除く。飲食店も、完全分煙(二重扉など)を設置し、十二分に配慮する。空港・駅などは公共施設だが、長時間喫煙ができないことを考慮し、喫煙室を設置してほしい。喫煙者のマナー向上対策も必要だが、残念ながら、現状は法的罰則もやむをえないと思えます。	喫煙者	男性	40代	宮城県
お互いが譲りあい禁煙、禁煙と騒いでほしくない。喫煙者も禁煙の場所は守り、少しの我慢は必要だと思う。また、歩きタバコや狭く換気のないところは我慢をするべき。喫煙者のマナーは守っていくこと。	喫煙者	女性	50代	大阪府
たとえば「半径5メートル以内に他人がいない場合、吸ってよい」など、従来にないマナー基準の社会的コンセンサスが得られるようなアナウンス活動が必要かと思えます。また吸殻のポイ捨てなど環境汚染に関しては「30万円以下の罰金」など重い懲罰を負荷することで、喫煙者の社会的なレベルアップを図ってはどうか。	喫煙者	男性	50代	東京都
喫煙所を設置してある場所でタバコをいただくそれに尽きると思う。義務教育課程で全てマナーや害について教育で教えていく事が必要。	喫煙者	女性	40代	兵庫県
1)喫煙者は喫煙者証と携帯灰皿を所持することを義務化し、まずはポイ捨てをなくす。2)副流煙が極力少ないタバコの開発と販売。3)現在流行している電子たばこを普及させるための国の補助金制度。	喫煙者	男性	40代	福岡県
元喫煙者から一言 どう見ても喫煙は良くない事を実感しているから言えるが、「双方」等と言わず健康保険他何かインセンティブを与え喫煙者の数を圧倒的に減らす事が先ず先。圧倒的に喫煙者の数が減れば、もう個人の趣味などとは言わず 強制力で喫煙を無くす様にすべき。何故なら喫煙は間違いなく命を縮めている、又多額の医療費を発生させているから国家的損失であるから。	非喫煙者	男性	70代	兵庫県
タバコは嗜好品。時と場所をわかまえるのは人間としての最低限のマナーだと思う。喫煙者を責めるのではないが、公共の場所から追放されるのは仕方なく、双方の共存は、幼児からのしつけ教育で教えるべき。共存は時間がかかると思われる。	非喫煙者	男性	60代	三重県
全面禁煙は逆に隠れて喫煙する人を増やすだけで正直いって迷惑している。私の通っていた病院でも構内が全面禁煙になり、入院患者や付き添いの人が病院の門のすぐ横でたむろしてタバコを吸うようになってしまった。そのすぐ近くには灯油タンクがあって火気厳禁の場所なのに。しかも歩いている人にぶつかったり、火がついたままろうろうしたり非常に危ない。助成金などを出して今分煙されていない施設を分煙できるように進めていくほうに力を入れて欲しい。	非喫煙者	女性	30代	北海道
喫煙者のモラルによりけりだと思います。ポイ捨てだけが悪いように勘違いしている人が多い。煙を撒き散らしているのは個人的公害であると思います。自分も元々喫煙者でしたが、体調を崩し嫌煙になりました。喫煙者の時にははずかしながらあまりまわりのことを考えていませんでした。もっと喫煙の害について広告を出すべき。	非喫煙者	女性	30代	東京都
喫煙するのは自己責任なので全くかまわないと思うのですが、非喫煙者としては煙をばらまかれることについては迷惑だと感じています。同じマンションでベランダで喫煙をしていらっしゃる方がいるのですが、夏場窓を開けているとタバコのおいが自分の家に漂ってくることにとても困っています。喫煙者の方が心置きなく喫煙できる完全密封された空間がもっと増えるといいなと思います。分煙のレストランは喫煙席に近いと、まったく分煙の意味が無いのが残念です。	非喫煙者	女性	30代	東京都
喫煙者が非喫煙者の気持ちや害をわかるように、教育や指導をする。喫煙者が煙草を吸えるコーナーを設ける。ただし、隔離されていて非喫煙者の迷惑にならない場所であること。	非喫煙者	女性	20代	三重県

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 山内善行
TEL : 03-5433-3161 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife (キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>
